

TOSHIN Hearing NEWS

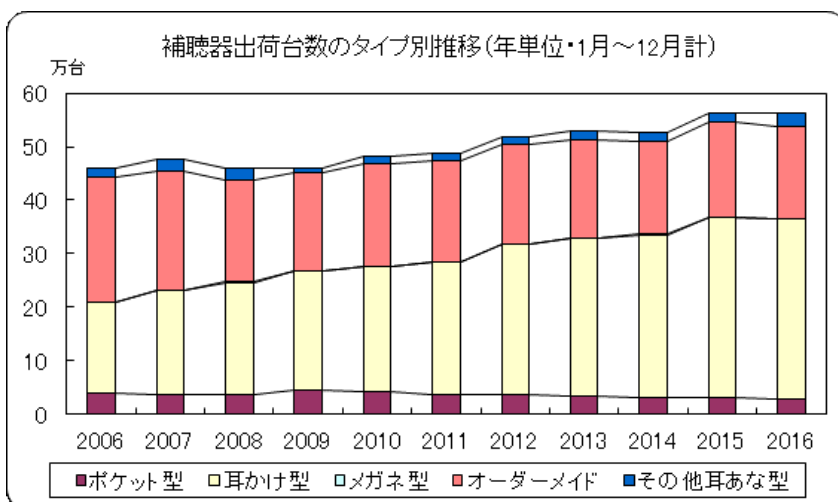
2017年6月発行

2016年の補聴器出荷台数まとめ

一般社団法人日本補聴器工業会が発表

2016年1月～12月の出荷台数は561,557台で前年比727台減の99.9%、出荷金額は320億7千5百万円で前年比10億9千7百万円減の96.7%と減少したものの、前年比106.9%の大幅増を記録した2015年の高い水準(56万台)をキープしたことより、日本補聴器工業会(日補工)は「市場における補聴器に対する期待感は根強く、過去5年間における年間出荷台数の平均伸び率は約3.3%を示し順調に推移していることから、補聴器業界として今回の結果から直ちに憂慮すべき事態に陥ったとは捉えていない」との考えを示した。

出荷台数の縮小については以下の3点を要因として挙げている。1点目は、いわゆる年金カット法案の成立をはじめ高齢者の経済的負担に対する不安感が増し、消費活動にマイナスの影響が出たこと、2点目は、日補工の調査で2015年における全国の補聴器取扱店舗数は7651店舗と、2008年調査時の6877店舗に比べて774店舗増えているものの、その中心である大手メガネチェーン店の統廃合により、新規出店が一段落し補聴器取扱店舗数の増加率が鈍化したこと、3点目は、メーカー各社の修理サポート体制が充実してきたことなどにより、新規購入よりも修理で済ませる傾向が強まり補聴器の買替えサイクルが伸びたのではないかと見ている。出荷金額の縮小については各メーカーの新製品が普及価格帯に集中する傾向があり、出荷台数の減少と相まって落ち込みにつながったと考察している。



耳かけ型のうち RIC は全体の 44.7% RIC の勢いは鈍化

ポケット型は2万7260台(前年比87.7%)、耳かけ型は33万8689台(同100.4%)、耳あな型は19万5170台(同100.9%)となった。耳かけ型のうち RIC は全体の44.7%を占め、耳あな型のうちオーダーメイドは17万567台(同96.2%)と減少、その他の耳あな型は2万4603台(同153.6%)と大きく伸びている。またデジタルの比率は96.7%と、ほぼ100%に近づいている。

※RIC: Receiver in the Canal

外耳道内にレシーバーが配置された耳かけ型補聴器

時宝光学新聞より抜粋

目次

- 1 2016年の補聴器出荷台数まとめ
- 2 リオンがBONXとの業務提携を発表
- 3 新製品情報
- 4 サポート周辺機器の紹介

リオンが株式会社 BONX との業務提携を発表

リオンは、ウェアラブルコミュニケーションデバイス事業を展開する株式会社 BONX(代表取締役:宮坂貴大、本社:東京都世田谷区)との業務提携について合意したことを発表した。

「今回の業務提携は、リオンが長年培ってきた補聴器開発における超小型化や低消費電力、防水やマイクロホン、イヤホンなどのセンサー技術と、ウェアラブルコミュニケーションデバイス『BONX Grip(ボンクスグリップ)』を既に製造・販売している株式会社 BONX のモバイルネットワーク技術やデザイン力などを組み合わせることで、新たな聴覚デバイスの技術協業や研究をすることが目的です。ウェアラブルコミュニケーションデバイスは、様々な行動シーンでスムーズにコミュニケーションをとることができるため、日常生活をはじめビジネスシーンやレジャーなどのあり方に革新をもたらす可能性があります。当社ならびに株式会社 BONX では、今回の業務提携を機に共同研究・事業を進め、この分野の発展に貢献していきます。」と述べられている。

※詳しくは、リオン株式会社ホームページ <http://www.rion.co.jp/> をご覧ください。

株式会社 BONX について

会社名	株式会社 BONX(ボンクス)
設立	2014年11月
代表者	代表取締役 CEO 宮坂貴大
所在地	東京都世田谷区駒沢4丁目
事業内容	ウェアラブルデバイスの企画・開発・販売
ホームページ	https://bonx.co/ja/

新製品情報 リオンがオーディオメータ「AA-M1A」を発売



主な検査項目

標準純音聴力検査、選別検査、SISI 検査、ABLB 検査、
自記オーディオメトリー（固定周波数自記検査、TTS 検査）、
語音聴力検査、音場閾値検査、音場語音聴力検査、
特殊聴覚検査（遅延側音検査、ロンバールテスト、ステンゲルテスト）

総合病院、耳鼻咽喉科クリニックなどの臨床現場に最適

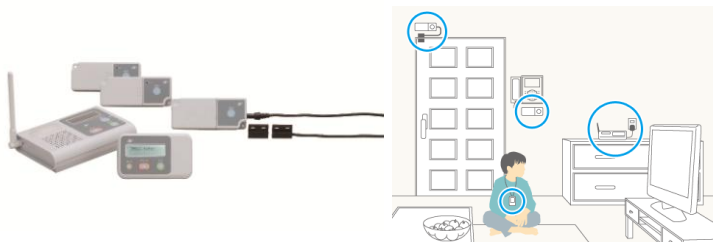
リオンは、新たに聴覚障害 2 級の手帳申請をされる方に対する、特殊聴覚検査（遅延側音検査、ロンバールテスト、ステンゲルテスト）を搭載したオーディオメータ「AA-M1A」を開発し販売を開始しました。

聴覚障害の身体障害者手帳をお持ちでない方が新たに聴覚障害 2 級の身体障害者手帳を申請される際には、従来の純音聴力検査に加えて ABR 等の他覚的聴力検査、又はそれに相当する検査を踏まえて認定となります。当該機種は「それに相当する検査」として厚生労働省のガイドラインに指定された、遅延側音検査、ロンバールテスト、ステンゲルテストを搭載しています。

それに加え、補聴器適合検査に用いるスピーカ出力や補聴器適合検査の指針（2010）検査用音源も搭載しており、補聴器適合検査実施施設に最適なオーディオメータとなっております。

聴覚サポート周辺機器の紹介【1／3】

聞こえの不自由な方のためにドアチャイムや電話の音を光や振動に換えて気付きやすくする周辺機器



リオン社製 おしらせらんぷ BA-05

特徴

電話の音やドアチャイム、ドアが開いたことなどを、光・振動・メッセージでお知らせします。受信機は持ち運びに便利な携帯用サイズです。

家中どこでも「おしらせ」を知ることができます

「おしらせらんぷ BA-05」は、中継機 1 台、携帯受信機 1 台、音センサー 2 台、ドアセンサー 1 台がセットに含まれています。携帯受信機を身につけておくことで、家中どこでも、光、振動、メッセージによる「おしらせ」を知ることができます。

さらに、どこからの「おしらせ」かは、3 種類の振動パターン、6 色の光、メッセージで区別して知ることができます。



TOSHIN Hearing NEWS 発行元

東神実業株式会社
トーシン補聴器センター

本社：〒550-0002 大阪市西区西本町2-4-7

TEL：06(6531)2541 FAX：06(6531)3398

URL：<http://www.toshin-ha.co.jp/>